

## 第2章 調査結果の概要

### 1. 対象者間比較の調査結果

調査票の中には、同じ設問を異なる対象者にたずねている。保護者（親）がどう感じているのか、子どもや若者自身がどう感じているのか、などと対象者別に調査結果を比較することにより、問題点や世代間の格差などを把握し、今後の計画の施策づくりへの基礎資料とする。

- \* 取り上げたテーマや設問は主なものである。
- \* 各設問の意識や要望の高さを考慮し、上位3つまでを掲載している。
- \* Nは各設問の回答者総数を表し、表中の数値はNに対する構成比(%)である。

#### (1) 子育てに関する考え方や意識

「女性も子育て期に仕事をやめるべきでない」

「そう思う」でみると『中学高校生の年代の保護者』が2割みられるものの、対象者間で大きな差はみられない。また、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、いずれの対象者も5割前後（順に52.2、55.9、52.4、53.8、48.0）にのぼっている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
未就学児の保護者（問1）N=838	18.9	33.3	37.4	9.8
小学生の保護者（問1）N=533	18.6	37.3	32.6	10.5
中学高校生の年代の保護者（問1）N=441	20.9	31.5	31.7	14.3
25～29歳で子どもいない者（問13）N=396	17.7	36.1	33.3	11.1
中学高校生の年代（問30）N=352	18.5	29.5	37.8	12.2

「子どものことでどうしたらよいかわからなくなる」

「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせると、『未就学児の保護者』（60.8）が『小学生の保護者』（52.1）よりも、8.7ポイント高くなっている。

	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	まったく感じない
未就学児の保護者（問3）N=838	7.8	53.0	33.4	5.5
小学生の保護者（問3）N=533	6.9	45.2	40.3	7.1

「子どものことでイライラしたり世話が嫌になる」

「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせると、『未就学児の保護者』が7割強（74.9）にのぼっている。

	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	まったく感じない
未就学児の保護者（問3）N=838	9.1	65.8	21.7	3.2
小学生の保護者（問3）N=533	7.7	46.2	36.6	9.2

(2) 結婚・子育てに関する子どもと若者の考え方や意識

「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」

双方ともに「そう思う」が8割弱にのぼっている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	75.3	18.9	3.3	1.5
中学高校生の年代(問30) N=352	78.1	16.5	2.6	1.7

「結婚してもうまくいかなければ離婚してもやむをえない」

「そう思う」では『25～29歳』で5割強と半数を超えているが、『中学高校生の年代』でも4割強になっている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	53.5	34.6	7.1	3.5
中学高校生の年代(問30) N=352	42.9	35.2	17.0	3.4

「できちゃった婚をしても、幸せであれば問題ない」

「そう思う」では『25～29歳』で8割弱を占めており、『中学高校生の年代』でも6割強にのぼっている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	76.8	15.4	5.8	1.0
中学高校生の年代(問30) N=352	61.9	27.0	6.5	3.1

「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」

双方ともに「そう思う」が半数を超えている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	55.3	27.0	11.6	4.8
中学高校生の年代(問30) N=352	59.4	21.6	14.2	2.8

「結婚はしたくないが、子どもはほしい」

「そう思わない」では『25～29歳』(70.2)が『中学高校生の年代』(51.1)よりも19.1ポイント上回っている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	2.8	5.8	19.9	70.2
中学高校生の年代(問30) N=352	3.4	7.1	36.9	51.1

「子育ては男女が共同して行うほうがよい」

双方ともに「そう思う」が7割台にのぼっている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	79.8	17.4	0.8	0.8
中学高校生の年代(問30) N=352	71.0	23.9	3.7	0.0

「子どもが3歳になるまでは、母親が家庭で育てる方がよい」

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、『25～29歳』は7割強(75.2)、『中学高校生の年代』は6割強(65.4)にのぼっている。

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
25～29歳で子どものいない者(問13) N=396	34.8	40.4	11.4	11.6
中学高校生の年代(問30) N=352	31.3	34.1	23.9	9.4

### (3) 子育てと仕事の両立

ほしい子どもの数が実現しない理由(3つまでの制限回答)

『未就学児の保護者』『小学生の保護者』ともに「経済的(収入面や子育てにかかる費用)が大変」を1位にあげて6割前後と高く、2位以下を30ポイント以上も上回っている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問4-1) N=418	経済的(収入面や子育てにかかる費用)に大変 61.0	家が狭いから 22.2	子育ての精神的・肉体的負担を軽くしたいから 20.8
小学生の保護者 (問4-1) N=189	経済的(収入面や子育てにかかる費用)に大変 58.2	子育ての精神的・肉体的負担を軽くしたいから/自分(配偶者)の健康上の理由で/家が狭いから 20.1	子どもができない 18.5

仕事や職種が変わったり辞めた理由(2つまでの制限回答)

「第一子」についてたずねたところ、『未就学児の保護者』『小学生の保護者』ともに「子育てに十分時間をかけたかった」を1位にあげて5割前後みられ、2位と3位に大きな差はみられない。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問10-1) N=439	子育てに十分時間をかけたかった 49.7	体力的に自信がなかったため 26.7	職場に十分な制度や理解と協力がなかったため 25.5
小学生の保護者 (問11-1) N=257	子育てに十分時間をかけたかった 53.3	体力的に自信がなかったため 28.0	職場に十分な制度や理解と協力がなかったため 26.1

子育てと仕事の両立を図りやすくするために企業等に求める制度（3つまでの制限回答）  
『未就学児の保護者』『小学生の保護者』ともに「子どもが病気やけがなどのときの介護休暇制度」を1位にあげて4割強となっている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問5) N=838	子どもが病気やけがなどのときの介護休暇制度 44.2	出産・育児のため会社を辞めた女性の再雇用制度 32.5	企業が男性も各種制度の適用対象とし子育て支援する 23.5
小学生の保護者 (問5) N=533	子どもが病気やけがなどのときの介護休暇制度 46.3	出産・育児のため会社を辞めた女性の再雇用制度 33.6	育児のため必要な期間、就業時間を縮められる制度 23.1

#### (4) 子育てと地域社会

##### となり近所とのおつきあい

『未就学児の保護者』『小学生の保護者』『中学高校生の年代の保護者』では、「ときどき立ち話をする」が4割以上みられるのに対し、『25～29歳で子どものいない者』『中学高校生の年代』では、「あいさつをする程度」が6割以上となっている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問12) N=838	ときどき立ち話をする 43.0	あいさつをする程度 32.5	困っているときに相談や助け合っている 8.4
小学生の保護者 (問13) N=533	ときどき立ち話をする 47.3	あいさつをする程度 29.6	困っているときに相談や助け合っている 12.9
中学高校生の年代の保護者(問9) N=441	ときどき立ち話をする 51.7	あいさつをする程度 28.6	困っているときに相談や助け合っている 7.9
25～29歳で子どものいない者(問15) N=396	あいさつをする程度 65.4	ほとんどつきあいはない 19.2	ときどき立ち話をする 11.4
中学高校生の年代(問20) N=352	あいさつをする程度 70.5	ときどき立ち話をする 11.9	ほとんどつきあいはない 11.1

##### 自分の子どもについてとなり近所や地域の人たちに特にしてもらいたいこと

(2つまでの制限回答)

いずれの対象者も「いたずらや危険なことに対する注意や報告」を1位にあげて8割前後と高くなっている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問14) N=838	いたずらや危険なことに対する注意や報告 82.7	暖かく見守ってくれ ること 44.6	緊急時に子どもを一 時預かってくれるこ と 35.0
小学生の保護者 (問15) N=533	いたずらや危険なことに対する注意や報告 83.7	子どもが危ない目にあ ったときの避難先にな ってくれる 66.8	暖かく見守ってくれ ること 33.8
中学高校生の年代の 保護者(問11) N=441	いたずらや危険なことに対する注意や報告 79.4	子どもが危ない目にあ ったときの避難先にな ってくれる 52.4	暖かく見守ってくれ ること 42.2

となり近所や地域の人たちに特にしてもらいたいこと（3つまでの制限回答）

双方ともに「いたずらや危険なこと、人に迷惑がかかることをしていたら注意してほしい」を上位にあげており、『保護者』と同じような意向がみられるが、『中学高校生の年代』では「かかわってほしくない」が2割強みられる。

	1位	2位	3位
中学高校生の年代 (問 21) N=351	いたずらや危険なこと、人に迷惑がかかることをしていたら注意してほしい 44.4	子どものことをあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい 39.9	かかわってほしくない 23.4
小学4・5・6年生 (問 12) N=489	子どもあつかいしないで、子どもの意見を聞いてほしい 40.3	いたずらや危険なこと、人に迷惑がかかることをしていたら注意してほしい 38.0	子どものことをあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい 35.2

子育てサークルに参加してよかったこと（複数回答）

「情報の交換ができてよかった」が『未就学児の保護者』では7割強と高くなっている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問 16 - 2) N=144	情報の交換ができてよかった 71.5	地域に友だちができてよかった 65.3	子どもの遊び相手が出てよかった 61.8
小学生の保護者 (問 17 - 2) N=40	地域に友だちができてよかった 57.5	情報の交換ができてよかった 52.5	子どもの遊び相手が出てよかった 50.0

子育てサークルに参加してよくなかったこと（複数回答）

「親同士の関係に気がついてストレスになった」が『未就学児の保護者』では1割強、『小学生の保護者』では2割強みられる。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問 16 - 3) N=144	特にない 70.8	親同士の関係に気がついてストレスになった 16.7	子ども同士のトラブルで嫌な思いをすることが多かった 6.3
小学生の保護者 (問 17 - 3) N=40	特にない 57.5	親同士の関係に気がついてストレスになった 22.5	子ども同士のトラブルで嫌な思いをすることが多かった 7.5

安心して子育てをするために必要と考える取組み（3つまでの制限回答）

いずれの対象者も「地域の親（保護者）が気軽に情報交換や相談できる場」を1位にあげて5割以上となっている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問17) N=838	地域の親（保護者）が気軽に情報交換や相談できる場 59.2	学校や親（保護者）が子どもの安全や非行防止の活動をする 49.2	学校や児童館などが連携して子どもの活動を育成・支援する 45.0
小学生の保護者 (問18) N=533	地域の親（保護者）が気軽に情報交換や相談できる場 51.4	学校や親（保護者）が子どもの安全や非行防止の活動をする 48.2	学校や児童館などが連携して子どもの活動を育成・支援する 46.2
中学高校生の年代の保護者(問13)N=441	地域の親（保護者）が気軽に情報交換や相談できる場 62.6	学校や児童館などが連携して子どもの活動を育成・支援する 42.2	学校や親（保護者）が子どもの安全や非行防止の活動をする 39.7

保育や相談などのボランティア活動への参加意向

「ある」と「少しある」を合わせると、いずれの対象者も6割前後(順に59.0、56.6、65.1)となっている。

	ある	少しある	あまりない	まったくない
未就学児の保護者 (問18) N=838	11.9	47.1	32.2	5.5
小学生の保護者 (問19) N=533	14.4	42.2	34.9	5.1
中学高校生の年代の保護者(問14)N=441	18.6	46.5	29.3	4.1

ボランティア活動経験

「1度だけ」と「数回程度」を合わせてみると、『中学高校生の年代』が5割強(53.6)と最も高くなっている。一方、「ない」では『25～29歳で子どものいない者』が6割強と高くなっている。

	1度だけある	数回程度ある	今も続けている	ない
25～29歳で子どものいない者(問18) N=396	5.8	26.0	2.0	62.4
中学高校生の年代(問23)N=352	17.3	36.4	4.3	41.5
小学4・5・6年生(問14)N=489	15.5	28.8	8.8	43.8

参加したボランティア活動（参加してみたいも含む）(複数回答)

いずれの対象者も「自然・環境保護」「リサイクル」への参加が高くなっている。

	1位	2位	3位
25～29歳で子どものいない者 (問18-1) N=396	自然・環境保護 27.5	リサイクル 26.0	国際交流活動 21.7
中学高校生の年代 (問23-2) N=352	地域活動（そうじなど） 28.4	寄付や募金の活動 24.7	自然・環境保護 21.0
小学4・5・6年生 (問14-2) N=489	寄付や募金の活動 37.6	リサイクル 36.4	おとしよりの手助け 32.3

(5) 求められる子育て環境

あるといい遊び場や施設(5つまでの制限回答)

「運動ができる大きな広場や公園」について『保護者』も『子ども』も上位にあげており、『未就学児の保護者』『小学生の保護者』『中学高校生の年代の保護者』では6割以上、『中学高校生の年代』『小学4・5・6年生』では4割以上となっている。また、『子ども』では「友だちとおしゃべりや飲食ができる施設」が上位に入っている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問20) N=838	雨の日でも遊べる施設 65.8	運動ができる大きな広場や公園 63.2	雑木林や川などの自然に触れられる遊び場 62.4
小学生の保護者 (問21) N=533	運動ができる大きな広場や公園 66.2	雑木林や川などの自然に触れられる遊び場 56.8	雨の日でも遊べる施設 55.3
中学高校生の年代の保護者(問16) N=441	運動ができる大きな広場や公園 64.2	雑木林や川などの自然に触れられる遊び場 51.7	図書館・公民館・児童館など公共施設 42.4
中学高校生の年代 (問27) N=352	友だちとおしゃべりや飲食ができる施設 52.6	運動ができる大きな広場や公園 40.6	インターネットが使える施設 38.9
小学4・5・6年生 (問18) N=489	運動ができる大きな広場や公園 50.1	雨の日でも遊べる施設 48.7	友だちとおしゃべりや飲食ができる施設 45.6

子どもが使いやすい遊び場や施設にするために必要なこと(複数回答)

双方ともに「子どもの意見をとり入れる」を1位にあげて7割前後と高くなっている。

	1位	2位	3位
中学高校生の年代 (問26) N=352	子どもの意見をとり入れる 68.8	利用料を無料にする 66.2	日曜や祝日も利用できるようにする 61.9
小学4・5・6年生 (問17) N=489	子どもの意見をとり入れる 73.2	利用料を無料にする 68.3	日曜や祝日も利用できるようにする 45.8

子育てに関する相談・情報提供などのサービスへの要望(5つまでの制限回答)

いずれの対象者も「子育て中の親が情報交換できる」を1位にあげている。また、いずれの対象者も「専門家などが相談にのってくれる」を上位にあげており、「カウンセリングが受けられる」が『中学高校生の年代の保護者』では4割強にのぼっている(『小学生の保護者』も4割強(42.4)で4位)。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問21) N=838	子育て中の親が情報交換できる 60.0	子どもに遊びを教えしてくれる 47.9	専門家などが相談にのってくれる 41.1
小学生の保護者 (問22) N=533	子育て中の親が情報交換できる 49.2	子どもに遊びを教えしてくれる 43.5	専門家などが相談にのってくれる 43.2
中学高校生の年代の保護者 (問17) N=441	子育て中の親が情報交換できる 58.5	専門家などが相談にのってくれる 49.9	カウンセリングが受けられる 44.4

妊娠・出産・子育てを通じて困ったことや悩んだこと（複数回答）

『未就学児の保護者』『小学生の保護者』ともに「子どもの育て方（しつけ方）」を1位にあげて5割以上にのぼっている。『中学高校生の年代の保護者』では「勉強や進路のこと」が1位となっている（『小学生の保護者』は4位（33.8））。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問35) N=838	子どもの育て方（しつけ方）51.9	自分の時間がない 46.8	子どもの健康 41.5
小学生の保護者 (問33) N=533	子どもの育て方（しつけ方）50.5	子どもを叱ることが多いと感じる 35.8	子どもの健康 34.5
中学高校生の年代の保護者(問26) N=441	勉強や進路のこと 52.4	子どものアレルギー（アトピーや喘息）38.1	子どもの健康 37.6

困ったことや悩んだことを相談する人や相談先（複数回答）

いずれの対象者も「配偶者」を1位にあげて6割以上となっている。また、『小学生の保護者』『中学高校生の年代の保護者』になると、「友人・知人」の割合が高くなってきている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問36) N=838	配偶者 79.4	子どもの祖母・祖父 66.1	友人・知人 65.5
小学生の保護者 (問34) N=533	配偶者 80.1	友人・知人 71.9	子どもの祖母・祖父 51.2
中学高校生の年代の保護者(問27) N=441	配偶者 68.7	友人・知人 57.8	子どもの祖母・祖父 33.8

子育て環境のために期待する市の施策（5つまでの制限回答）

『未就学児の保護者』『小学生の保護者』『中学高校生の年代の保護者』いずれも「夜間や休日などの小児科の医療体制の整備」を1位にあげて5割以上にのぼっている。また、『25～29歳で子どものいない者』を含むいずれの対象者も「医療費、教育費などにかかる負担」について上位にあげている。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問23) N=838	夜間や休日などの小児科の医療体制の整備 58.8	医療費の助成 56.2	養育費や教育費の経済的負担の援助 46.3
小学生の保護者 (問24) N=533	夜間や休日などの小児科の医療体制の整備 57.6	医療費の助成 47.5	養育費や教育費の経済的負担の援助 38.8
中学高校生の年代の保護者(問18) N=441	夜間や休日などの小児科の医療体制の整備 54.0	困ったときに子どもを預けられる制度の充実 42.6	養育費や教育費の経済的負担の援助 41.3
25～29歳で子どものいない者(問21) N=396	子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減 53.8	保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減 53.5	保育サービスや施設の整備 46.5

(6) 子どもの生活環境

学校に行きたがらないときの対処(複数回答)

双方ともに「行きたくない理由を話し合い、場合によっては休ませた」を1位にあげて6割以上にのぼっているが、「だまって様子を見た」が2割みられる。

	1位	2位	3位
小学生の保護者 (問30-1) N=83	行きたくない理由を話し合い、場合によっては休ませた 61.4	無理やりにでも学校に行かせた 30.1	だまって様子を見た 20.5
中学高校生の年代の保護者(問22-1) N=117	行きたくない理由を話し合い、場合によっては休ませた 65.8	子どもの意思に任せただ 35.0	だまって様子を見た 20.5

学校に行きたくなくなる理由(複数回答)

『中学高校生の年代』『小学4・5・6年生』ともに「身体の具合が悪いとき」を1位にあげて4割以上となっている。

	1位	2位	3位
中学高校生の年代 (問6-1) N=241	身体の具合が悪いとき 41.9	なんとなく 39.0	寝坊をしたとき 36.1
小学4・5・6年生 (問6-1) N=352	身体の具合が悪いとき 53.7	なんとなく 35.5	友だちとうまくいかないとき 31.8

学校でいじめを受けたらどうするか(複数回答)

双方ともに「子どもに事情をよく聞く」が8割以上と高くなっており、以下も同じ傾向がみられる。

	1位	2位	3位
小学生の保護者 (問31-1) N=533	子どもに事情をよく聞く 91.0	子どもと解決策について話し合う 69.6	学校に対応してくれるよう頼む 67.7
中学高校生の年代の保護者 (問23-1) N=441	子どもに事情をよく聞く 86.4	子どもと解決策について話し合う 68.7	学校に対応してくれるよう頼む 58.0

いじめを受けたときどうしたか(複数回答)

「相談」でみると、『小学4・5・6年生』では「母親に相談した(する)」が4割強、『中学高校生の年代』では「友だちに相談した(する)」が3割強と上位にあげられている。

	1位	2位	3位
中学高校生の年代 (問7-1) N=352	相手のいじめを無視した(する) 42.0	友だちに相談した(する) 34.4	相手に仕返しをした(する) 27.6
小学4・5・6年生 (問7-1) N=489	母親に相談した(する) 40.7	相手のいじめを無視した(する) 35.4	相手に仕返しをした(する) 29.4

不安や悩みに思うこと（複数回答）

双方ともに「勉強のこと」が5割前後と高くなっている。また、「顔や体型のこと」が3割以上となっている。

	1位	2位	3位
中学高校生の年代 (問18) N=352	将来や進路のこと 56.3	勉強のこと 52.8	顔や体型のこと 41.2
小学4・5・6年生 (問10) N=489	勉強のこと 49.5	自分の性格やクセの こと 47.0	顔や体型のこと 34.2

不安や悩みの相談先（複数回答）

双方ともに「同年齢の友だち」「母親」を上位にあげているが、『中学高校生の年代』では「なにもしなかった」が1割強みられる。

	1位	2位	3位
中学高校生の年代 (問19) N=352	同年齢の友だち 71.0	母親 39.2	なにもしなかった 14.2
小学4・5・6年生 (問11) N=489	母親 53.6	同じ年齢の友だち 49.5	父親 26.0

教育は学校の役割なので先生が責任をもってしなければならない

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、『小学生の保護者』が6割強（61.1）と最も高く、次いで『中学高校生の年代の保護者』（55.3）、『未就学児の保護者』（49.8）と続いている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思 わない	そう思わない
未就学児の保護者 (問1) N=838	13.4	36.4	36.9	13.0
小学生の保護者 (問1) N=533	22.6	38.5	28.3	9.9
中学高校生の年代の 保護者(問1) N=441	24.0	31.3	29.9	13.4

教育環境をよくするため必要なこと（3つまでの制限回答）

双方ともに「少人数学級（指導）の充実」が1位にあげられている。また、『小学生の保護者』では「いじめや不登校をなくしていく仕組みづくり」が4割弱で2位となっている（『中学高校生の年代の保護者』は3割弱（31.3）で4位）

	1位	2位	3位
小学生の保護者 (問6) N=533	少人数学級（指導） の充実 57.4	いじめや不登校をな くしていく仕組みづ くり 38.5	子ども一人ひとりの 能力に応じた教育の 充実 37.9
中学高校生の年代の 保護者(問3) N=441	少人数学級（指導） の充実 43.1	子ども一人ひとりの 能力に応じた教育の 充実 42.2	先生の教科指導力を 高める 31.7

学校自由選択制度への考え方

いずれの対象者ともに「賛成」が4割以上となっている。また、「どちらかという反対」「反対」を合わせてみると、『中学高校生の年代の保護者』が1割強(13.0)みられる。

	賛成	どち うら うか と成	どち よら い	どち うら うか と対	反 対	そ の 他	わな か ら い
未就学児の保護者 (問6) N=838	49.4	21.6	20.2	4.4	1.0	0.2	3.0
小学生の保護者 (問7) N=533	48.2	24.0	14.8	6.2	2.1	0.6	3.6
中学高校生の年代の保護者 (問4) N=441	43.5	20.4	17.9	7.9	5.2	0.9	3.4

子どもの権利について特に大切だと思うこと(5つまでの制限回答)

『未就学児の保護者』『小学生の保護者』『中学高校生の年代の保護者』では、「暴力や言葉で傷つけられないこと」が上位にあげられている。また、『中学高校生の年代』『小学4・5・6年生』では同じ傾向となっているが、『小学4・5・6年生』は「遊んだり疲れたときは休むなど自由になる時間を持つこと」が4割強で3位となっている(『中学高校生の年代』は4割弱(37.2)で7位)。

	1位	2位	3位
未就学児の保護者 (問7) N=838	暴力や言葉で傷つけられないこと 71.4	家族が仲良く一緒に過ごす時間を持つこと 67.4	障害のある子どもが差別されないで暮らせること 59.8
小学生の保護者 (問8) N=533	暴力や言葉で傷つけられないこと 71.3	人と違う自分らしさが認められること 64.7	障害のある子どもが差別されないで暮らせること 56.3
中学高校生の年代の保護者(問8) N=441	人と違う自分らしさが認められること 66.7	暴力や言葉で傷つけられないこと 60.3	子どもも独立した人格の持主と認められること 59.9
中学高校生の年代 (問29) N=352	人と違う自分らしさが認められること 57.4	障害のある子どもが差別されないで暮らせること 56.8	自分の考えをいつでも自由に言えること 46.3
小学4・5・6年生 (問20) N=489	人と違う自分らしさが認められること 46.0	障害のある子どもが差別されないで暮らせること 45.6	自分の考えをいつでも自由に言えること/遊んだり疲れたときは休むなど自由になる時間を持つこと 42.7